

# 藤田組 創業100周年記念セミナー開催

## ニッセイ基礎研究所・井出氏が登壇

藤田組は1月22日、東京都中央区の本橋倶楽部会議室で「第27回企業セミナー」を開催した。創業100周年の記念セミナーとなった今回は、ニッセイ基礎研究所金融研究部主席研究員でチーフ株式ストラテジストの井出真吾氏が「2024年の世界情勢と日本経済」と題して、日本の経済状況や景気の見通しなどについて解説した。当日は、貿易関係をはじめとする各種企業の経営者など多数が参加した。

冒頭にあいさつした藤田徹社長は、コロナ禍で休止していたセミナーの4年ぶりの再開に喜びを表し、「代理店として活動を開始してから山あり谷ありで、特にコロナ禍では厳しい状況にあったが、昨年の7月1日に無事に100周年を迎えることができ、ほっとしている。今後も皆さまの役に立てるよう、正道を歩むという企業理念に基づき活動していきたい」と述べた。

セミナーでは井出氏が、米国における利下げ開始時期の予測や、日経平均株価および為替の見



藤田社長



井出氏

しないものの、大きく減速した場合は、株価が急落して急激に円高になるリスクシナリオが想定されると指摘した。

米国株式市場については、一株あたりの純利益が低調であるにもかかわらず株価が大幅に上昇していることからAIバブルの状態にあるとの見解を示し、「BIG7」と

## 日米の経済状況・景気の見通し解説

を行う可能性もあるとの見方を示した。

仮に早い時期で利下げを開始したとしても、年内は4%台後半の高い金利が続くことから米国の景気減速は避けられないとし、IMFやOECDの予測どおりに成長率が1・5%程度の減速にとどまれば金融市場は動揺

呼ばれるGAFAM、テスラ、エヌビディアといった一部のハイテク株に投資資金が偏在していることが「AIバブルの正体」と述べた。

日本の株式市場も高値水準にあるものの、企業

業績が好調であり今後も増益が見込まれることから、バブルではなく日経平均株価は適正水準にあると説明。24年のレンジは3万円〜3万7000円程度と予想されるが、金利差が縮小傾向にあることから、長期的にはやや円高に戻るとの見通

つでも起こり得るとした。

為替については、米国が利下げ、日本が現状維持または利上げ方向に動き金利差が縮小傾向にあることから、長期的にはやや円高に戻るとの見通



熱心に聴講する参加者たち

しを示した。

日銀のマイナス金利解除については、実質賃金の低下が続く消費需要が弱い中、解除されても金利がマイナス0・1%からプラス領域へと大きく上がっていくことは考えにくく、日銀は当面プラスマイナスゼロ程度を維持する可能性が高いと述べた。

また、米国大統領選挙について、トランプ氏が再選した場合は経済活性化に向けてFRBに金利の引き下げを求め、中国経済が停滞し脅威ではなくなったことで中国への強硬姿勢を緩め貿易額を増加させるなど、市場にとって悪くない状況になると予測し、加えて、トランプ氏の再選が確定しても株式市場に大きな変動はないものの為替は円高に振れるとの見方を示した。

さらに、日本の企業や市場の状況について触れ、人手不足への対応や付加価値の向上に向け積極的な設備投資を行うなど企業が前向きな動きを見せていることや、東京証券取引所が上場企業に対して経営改善を要請している他、「日本を代表する稼ぐ力を持つ企業150社」で構成された株価指数「JPXプライム150」を新設して企業の活

性を後押ししていることなどを紹介した。

最後に、日本の株価の長期的な見通しについて解説し、企業が利益を生み出し株主資本が増える限り、長期的に見れば下値めどの水準は切上り、これに伴い株価も少しずつ上昇を続けていくとの見解を示した上

で、「日本株はバブル期の清算を終え、長期投資が報われる時代に入った。中長期的に見れば、株価は業績に連動して平均5%程度で上昇していくので、外国株だけでなく日本株への投資も検討してみてもほしい」と呼び掛けた。